様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：３４５０７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ０２８４５

研究課題名（和文）高大接続に対応する国語科教員養成の初期段階の指導プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of an instructional program for the first and second years of Japanese language teacher training at universities, with a particular focus on the high school-university connection

研究代表者
井口　あずさ（Iguchi, Azusa）

甲南女子大学・文学部・教授

研究者番号：９０５１１６００

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：　開発した指導プログラムは、高校での「読むこと」「書くこと」の学習を補充、発展させ、探究的な学びや能動的な学習態度を促すとともに、学習観を変容させうるものであった。
指導プログラムの指導内容の構成は「教材分析力」「授業構想力」「主体の育成」であった。「授業構想力」は、論理的文章の作成力と対応し、「教材分析力」とともに授業実践力の基礎をなすものである。その定義を、自身の読みの過程を探究的な課題の設定とその解決過程として再構成する力とした。また「教材分析力」育成のために、定番教材の新たな解釈を含め、多様な解釈を促す文学教材と絵本教材を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
実践力向上の基盤となる「読むこと」の授業構想力と教材分析力を、読み書き能力とともに育成する道筋を、指導プログラムとして新たに構造化した。それは高校で低調である文章表現指導や読書活動を補充、発展させるものであった。また、先行研究をもとに、教員養成初期段階における指導内容の開発の観点を４点に整理し、指導プログラムをもとに、探究的な学習活動を促す実践を具体化することで、国語科教員養成の初期段階における実践開発研究の方向性と方法を示した。さらに、実践で使用する教材を開発し、定番教材の新たな解釈方法や、絵本の教材化を提案した。

研究成果の概要（英文）：　The instructional program developed was designed to supplement and develop the high school learning of reading and writing, to promote inquiry-based learning and an active attitude toward learning, and to change the way students view learning.
The instructional content of the program consisted of "the ability to analyze teaching materials," "the ability to plan lessons," and "the development of the subject of learning. The "ability to plan lessons" corresponds to the ability to write logical texts, and together with the "ability to analyze teaching materials," it forms the basis of the ability to practice teaching. It is defined as the ability to reconstruct one's own reading process as a process of setting and solving an inquiry-based problem. In order to cultivate the "ability to analyze teaching materials," we developed literature and picture book materials that encourage diverse interpretations, including new interpretations of standard teaching materials.

研究分野：教育学

キーワード：メタ認知方略　授業構想力　教材分析力　批評文　アカデミック・ライティング　探究　教材開発　絵本

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

## １．研究開始当初の背景

(1) 国語科教員養成の初期段階に特化した、高大接続に対応する指導プログラムの必要性

平成 29 年 12 月中央教育審議会答申は、国語科を中核に位置づけ、言語能力の育成を教科横断的に求めている。若手教員が増加する中、養成段階での国語科の授業実践力向上と、それに必要な言語能力向上は喫緊の課題である。実践力向上には言語活動の教材研究が有効とされるが(寺井, 2014)、その実践力の基盤となる授業構想力や、そのための言語活動に関係する読み書き能力、またそれらの力の関係は、教員養成段階においてまだ十分に検討されていない。一方、高校での作文指導は低調で(島田, 2012)、読書量に課題がある(毎日新聞, 2017)。そのため、養成の初期段階では、意識的に国語科の読み書きの指導に対応させ、言語能力とともに指導する必要がある。

(2)国語科の文章表現研究を援用した、教員養成の実証的・実践的な研究の重要性

平成 24 年 8 月中教審答申は、理論と実践の架橋となる研究を求め、学習成果につながる学習科学等の実証的な研究が必要であるとした。しかし従来国語科では、記述的、質的な研究が多く、実証的に明らかにするものは多いとはいえない。井口(2016, 2017, 2019)は、作成したメタ認知方略尺度を枠組みとして、論理的で基礎的な文章表現指導と教材を開発し、認知面（言語能力・認識）と情意面の効果を得ている。この尺度は、読み書きの際の基礎的で重要な学習活動を構造化したものである。本研究では、この尺度を教員養成の初期段階に援用して指導を開発する。それは、リテラシー研究の対象を教員養成に広げ、教員養成の実証的・実践的研究を進展させようとするものである。

(3)本研究の学術的独自性と創造性

・国語科教員養成における、実践力の基盤となる授業構想力の解明：教師教育研究では、授業実践力を音声言語能力と関係づけて質的に記述することが多い。教員養成の初期段階に特化して、実践力の基盤となる基礎的な授業構想力とそれを支える読み書きの言語能力を、相互に関係づけて明らかにするものは見当たらない。今後、読み書き能力の面から現職若手教員の授業力の基盤を鍛える、学校内外での研修開発に生きるだろう。

・高大接続に対応する教員養成の実践研究の進展：本研究は高大接続の視点を取り入れて、教員養成に携わる大学教員の効果的な指導を提案するものである。開発する指導プログラムは学習活動の評価内容を含み、教員養成の指導者の「指導と評価の一体化」を導く。今後、大学での教員養成の実践研究につながるだろう。

・メタ認知方略尺度を枠組みとした教員養成指導の開発と評価：国語科の読み書き関連指導は、その基底にある転移する能力を求めてきたが、その内実は詳細ではない。本研究は、それをメタ認知方略尺度、つまり重要な学習活動として可視化し標準化したものを、教員養成に援用し読み書き能力を育成する。このように本研究は、今後、国語科教育の読み書き能力を同時に育成する指導研究や、国語科教員養成のリテラシー指導研究を拓くことにつながるだろう。

## ２．研究の目的

国語科教員養成の初期段階、すなわち大学１・２年次において、「主体的・対話的で深い学び」となる「読むこと」「書くこと」の授業構想力と、それに必要な読み書き能力を育成するための、高大接続に対応した指導プログラムを実証的・実践的に開発することを目的とした。

## ３．研究の方法

(1)小中学校の論理的な文章作成指導に用いて効果が得られたメタ認知方略尺度について、国語科教員養成初期段階の学生を対象に質問紙調査して尺度の教育的妥当性を明らかにし、探究的な学習過程に対応するよう、尺度の実践的解釈を進める。

(2)行政資料等を精査し、高等学校で育成する「資質・能力」に対応させて、国語科教員養成初期段階で求められる「読むこと」の指導内容との相互関係を整理する。また、指導内容と上記(1)の尺度の対応関係を明らかにし、各指導内容を定義する。

(3)教育学における教員養成研究を検討し、教員養成初期段階で必要な指導内容開発の観点を整理する。国語科教員養成研究を精査する。

(4)小～高校の国語科教科書教材を探究的な学習の観点から検討する。上記(2)(3)に対応させて指導内容を具体化して実践開発を行い、実践を通して反応を検証する。国語科教員養成初期段階の指導に用いる複数の教材を文学理論に対応させて開発し、指導過程、言語活動、評価方法を明らかにする。

## ４．研究成果

(1)小中学校の論理的な文章作成指導で用いて効果が得られたメタ認知方略尺度は、質問紙調査の結果、国語科教員養成初期段階においても同じ構造を備えていることが明らかになり、教育的妥当性が数量的に確認された。この尺度は、論理的な文章表現作成過程で用いる、重要な学習活動が標準化されたものであるが、小学校高学年～大学１・２年次生の論理的な文章作成過程での、基本的な学習活動でもあることが明らかになった。また、文章作成とそれに必要な文章読解指導

で使用することで認知面と情意面に効果が期待されるものであった。探究的な文章作成過程や読解過程に対応するよう尺度を実践的に解釈し、教員養成初期段階における探究的な「読むこと」の指導過程に対応させた。
(2)開発した指導プログラムは以下の特徴を備えており、「読むこと」で指導することで、教材を多様に解釈し、論理的な文章作成を通して、それらを探究的な課題の設定とその解決過程として再構成させる。それは専門教養を高め、探究的な学びや能動的な学習態度を導くとともに、高校での「読むこと」「書くこと」の学習を補充、発展させ、学習観の変容を促すものであった。(a)学校教育で育成する「資質・能力」と、教員養成初期段階での「読むこと」の指導内容とが対応する。指導内容は授業実践力の基盤となるもので、その構成は「教材分析力」「授業構想力」「主体の育成」である。(b)「授業構想力」の定義は論理的文章の作成力と対応する。すなわち、「児童・生徒が問題解決に向け探究する授業を学生が構成できるようになるために、学生が自身の読みの過程を探究的な課題の設定とその解決過程として再構成する力」である。(c)各指導内容と、構造化された重要な学習活動が対応する。この学習活動は、教育的妥当性を検証したメタ認知方略尺度を実践的に解釈したものである。(d)重要な学習活動は、文章作成過程での学習とその評価にも用いる。
(3)教育学研究を精査し教員養成初期段階での課題を検討したところ、求められる指導内容の開発の観点は「高校教育の質の保障」「受験勉強偏重からの転換」「専門教養の向上」「授業外での発展的な学習の促進」であることを指摘した。国語科教員養成では、いずれもまだ十分に指摘されていなかった。特に「受験勉強偏重からの転換」は、国語科教員養成の「読むこと」においては、教材を多様に解釈し、自ら課題を設定してそれを解決する探究的な学習が必要であった。
(4)指導プログラムで使用する、多様な解釈を促す文学教材の開発、教材分析の方法や学習活動の方法を検討した。開発した教材は、文学理論に即して①表記に特徴がある韻文、②内容の構造分析が可能な散文、③語りに特徴がある散文の三種と、④マルチモーダルメディアである絵本であった。①は高等学校教材、②③は小学校の定番教材を読み直すもので、いずれも新たな複数の解釈が得られることが明らかになった。④は、絵本は元来多様な解釈が想定された、絵と文章とページめくり等の身体表現が融合した複合メディアであるが、小学校教材の原典やその同一作者の絵本を分析する方法を、新たに提示した。開発された教材と指導は、高等学校新設科目「言語文化」「文学国語」にも対応するものであった。
(5)短期での実践を通して指導プログラムの効果を検討したところ、認知面と情意面に効果が見られた。いずれも上記(3)の指導内容の開発の観点のうち、「受験勉強偏重からの転換」「専門教養の向上」に関係していた。メタ認知方略を用いた複数の対話を通して、疑問を持ち複数の問いを生成したり、初読の印象や固定的な解釈を修正したりするような、教材への能動的な働きかけが促された。また、教員養成における教材分析や教材解釈に対する考え方が柔軟になり、多様な方法で複数の解釈を生み検討する力が重要であると気づくようになった。一方、文章表現の際に、自ら能動的に収集した多様な情報を精査して、特定の視点で整理させるための補助が必要な場合があった。

【引用文献】
井口あずさ(2016)「小学校国語科の『書くこと』における地域教材・学習材の開発－社会参加を導く記述前の学習活動を中心に－」『小田迪夫先生傘寿記念論文集』大阪教育大学国語教育講座，pp.21-31.
井口あずさ(2017)「中学校国語科の『書くこと』における地域教材・学習材と指導の開発－小中接続に対応するメタ認知方略尺度を用いて－」『比治山大学紀要』23，pp.1-13.
井口あずさ(2019)「探究的な学びを創出する論理的な文章表現指導と地域教材・学習材の開発－地域の特性を活用して－」『比治山大学紀要』25，pp.1-19.
島田康行(2012)『「書ける」大学生に育てる』大修館書店
寺井正憲(2014)「単元学習を開発するために－言語活動の授業づくり－」『月刊国語教育研究』504，pp.4-9.，日本国語教育学会
毎日新聞(2017)「第 63 回学校読書調査」平成 29 年 10 月 27 日付毎日新聞朝刊

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>井口あずさ | ４．巻<br>34 |
| ２．論文標題<br>「イベントの企画構想を取り入れた絵本の批評文作成指導ー大学の専門課程への導入としてー」 | ５．発行年<br>2024年 |
| ３．雑誌名<br>『国語教育学研究誌』 | ６．最初と最後の頁<br>34-43 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>井口あずさ | ４．巻<br>4・再発行版 |
| ２．論文標題<br>「絵本『きつねのかみさま』（あまんきみこ・作、酒井駒子・絵）の分析ー多様な想像を促す文章表現と視覚表現の方法ー」 | ５．発行年<br>2024年 |
| ３．雑誌名<br>『あまんきみこ研究会会報』 | ６．最初と最後の頁<br>1-13 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>井口あずさ | ４．巻<br>59 |
| ２．論文標題<br>国語科教員養成の初期段階における「読むこと」の指導の枠組みと指導事例の開発 | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>甲南女子大学紀要Ｉ | ６．最初と最後の頁<br>9-17 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>井口あずさ・石井眞治 | ４．巻<br>26 |
| ２．論文標題<br>小中学校国語科教科書の戦争平和教材に関する調査報告 | ５．発行年<br>2020年 |
| ３．雑誌名<br>比治山大学紀要 | ６．最初と最後の頁<br>167-180 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>井口あずさ | 4．巻<br>6 |
| 2．論文標題<br>文章表現指導におけるメタ認知に関する学習活動の開発の試み ― 絵本作りでの造形遊びの活用― | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>比治山大学・比治山大学短期大学部教職課程研究 | 6．最初と最後の頁<br>201-214 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>井口あずさ | 4．巻<br>25 |
| 2．論文標題<br>「国語科におけるメタ認知方略尺度を用いた探究的な学びの創出－論理的な文章表現指導と地域教材・学習材の開発を通して－」 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>『比治山大学紀要』 | 6．最初と最後の頁<br>1-19 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>井口あずさ | 4．巻<br>5 |
| 2．論文標題<br>「中学校国語教科書教材『大人になれなかった弟たちに…』の学習の手引きの史的検討」 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>『比治山大学比治山大学短期大学部教職課程研究』 | 6．最初と最後の頁<br>134-148 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　4件／うち国際学会　0件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>井口あずさ |
| 2．発表標題<br>「詩の教材研究ーことばのイメージの広げ方ー」 |
| 3．学会等名<br>兵庫教育文化研究所・第49回教育課程編成講座（神戸市教育会館）（招待講演） |
| 4．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>井口あずさ |
| ２．発表標題<br>「AI時代の『読む』」 |
| ３．学会等名<br>兵庫教育文化研究所・第50回教育課程編成講座（神戸市教育会館）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>井口あずさ |
| ２．発表標題<br>「『文学国語』の授業開発」 |
| ３．学会等名<br>令和4年度兵庫尚国会研修会（兵庫県民会館）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>井口あずさ |
| ２．発表標題<br>国語科教員養成の初期段階における「読むこと」の指導開発の試み（２）―高等学校「文学国語」に対応させて― |
| ３．学会等名<br>第144回全国大学国語教育学会（島根大学） |
| ４．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>井口あずさ |
| ２．発表標題<br>国語科教員養成の初期段階における「読むこと」の指導開発の試み（３）―高等学校「文学国語」に対応させて― |
| ３．学会等名<br>第145回全国大学国語教育学会（信州大学） |
| ４．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>井口あずさ |
| ２．発表標題<br>絵本『きつねのおきゃくさま』の教材化―国語科教員養成の初期段階における「読むこと」の指導開発の試み（４）― |
| ３．学会等名<br>第146回全国大学国語教育学会（鹿児島大学） |
| ４．発表年<br>2024年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>井口あずさ |
| ２．発表標題<br>「国語科教員養成の初期段階における『読むこと』の指導開発の試み ―批評文作成を通して―」 |
| ３．学会等名<br>第142回全国大学国語教育学会（東京学芸大学） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>井口あずさ |
| ２．発表標題<br>「大学初年次の文章表現指導における詩の鑑賞と創作の指導開発の試み ―国語科教員養成初期段階への援用可能性―」 |
| ３．学会等名<br>第143回全国大学国語教育学会（千葉大学） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>井口あずさ |
| ２．発表標題<br>国語科教員養成の初期段階における指導プログラムの開発：メタ認知方略尺度の教育的妥当性の検討 |
| ３．学会等名<br>日本教育心理学会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>井口あずさ |
| ２．発表標題<br>「中学校国語教科書教材「大人になれなかった弟たちに…」の学習の手引きの史的検討」 |
| ３．学会等名<br>第134回全国大学国語教育学会（大阪教育大学） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>井口あずさ |
| ２．発表標題<br>「ワークショップ・『思い出絵本』づくり」 |
| ３．学会等名<br>広島リビング新聞社「こども未来はっけん大学」（比治山大学）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2019年 |

〔図書〕　計1件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>井口あずさ他69名 | ４．発行年<br>2022年 |
| ２．出版社<br>溪水社 | ５．総ページ数<br>581 |
| ３．書名<br>『国語科教育学研究の成果と課題III』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

アウトリーチ活動として、教員志望の学生や教員を対象に、以下のワークショップ、講演を行った。
・「ワークショップ・「思い出ミニ絵本」づくり－言葉でイメージを広げる」2018年、第25回授業づくり勉強会（比治山大学）
・「ワークショップ・詩の創作ー生活を見る目を育む」2018年、第26回授業づくり勉強会（比治山大学）
・「探究的な学びの創造ー問いづくりを通して」2019年、第28回授業づくり勉強会（比治山大学）
・「ワークショップ・詩の創作」2000年、第29回授業づくり勉強会（広島県立美術館）

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|